

令和7年4月1日

## 2024年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校  
自己評価委員会・学校関係者評価委員会

### 記

#### 1. 学校関係者評価委員

亀井 一郎 (地域役員)  
牧 良平 (卒業生)  
川越 皓亮 (卒業生)  
小西 由貴 (卒業生)

#### (事務局)

上野 雅洋 (近畿医療専門学校 教務部長)  
藤原 光 (近畿医療専門学校 柔道整復学科長)  
佐々木 田鶴 (近畿医療専門学校 鍼灸学科学科長)  
西堀 健司 (近畿医療専門学校 広報部長兼総務部長)  
小林 栄美 (近畿医療専門学校 専科教員)  
畑本 敬子 (近畿医療専門学校 専科教員)  
西村 正美 (近畿医療専門学校 事務長 書記)

#### 2. 学校関係者評価委員の開催状況

開催日： 令和7年3月25日  
開催場所： 近畿医療専門学校 6F 理事会室

#### 3. 学校関係者評価委員会報告

別紙の通り

以上

## 別表

### I 実施方法

2024年度末に実施した自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明をした後、学校関係者評価委員の方々のご意見をいただき、意見交換、質疑応答、自己評価の妥当性、を取りまとめる。

評価結果は今後の教育活動や学生指導等の学校運営の改善に生かし、教育水準の向上に努めるとともにホームページ上に公表する。

### II 各評価項目について

項目	評価・意見
教育理念・目標	自己評価： 適正である 社会貢献・人材育成・奉仕の精神を基にした教育理念はホームページにて適切に表現されている。オープンキャンパスでは多くの保護者に来校してもらい学校の教育理念等について説明がされている。スポーツ関係疾患だけではなく、鍼灸における美容関係や東洋医学による慢性疾患治療にも力を入れている。また、在学中からの独自施術のセミナー開催など、業界のみならず社会のニーズに合わせた開発を試みている点は評価できる。
学校運営	自己評価： 適正である 理事会及び評議員会により運営方針や事業計画を策定が開催している。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会など、職業実践専門課程や修学支援制度に準じた教育内容の見直しや教育活動の報告がされている。学校の財務や委員会の議事も含め、学校のHPに掲載され公表されている。 今後も情報システムの統合や連携による効率化に加えてセキュリティ強化による運用が課題である。
教育活動	自己評価： 適正である 各種委員会を経て、体系的にカリキュラムが編成されている。授業評価アンケートも学生からの声を聴きやすくする工夫がされている。 専門分野に特化した非常勤講師を採用しており、さらなる目標の達成を目指している。 年間を通じて、専門分野の実務研修や指導力向上の教員研修、自己啓発研修や企業等が行う研修への参加による成果に期待したい。

<p>学修成果</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>2年連続で柔道整復科の国家試験合格率は大幅に改善された学習指導の改善を評価する。</p> <p>両学科の合同で合格率の向上を図るため国家試験対策ユニットを設け、前年度の反省とそれを踏まえた授業構成の変更などが功を奏している。成績下位層への個別塾形式の少人数補講など、手厚い学習対策は評価できる。今後も資格取得率 100%を目指すために、より充実したシステムの導入やコンテンツの作成などを推進してほしい。</p> <p>第1学年次からの補習並びに国家試験への意識付けを始めたことにより基礎学力の底上げと受験テクニックの向上を図っていることについては成果が現れてきていると感じる。1年の時から毎日 30 分でも勉強の習慣をつけさせる方法を見つけてほしい。</p>
<p>学生支援</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>就職情報が自由に見やすい環境が作られている。希望者に就職相談や履歴書記載指導、業界情報の説明など就職支援は評価できる</p> <p>担任3人制をとり、学生へ目が届きやすくしていること、気軽に相談しやすく工夫していることなど評価できる。慣れない環境ではじめての勉強ということもあり、学生の精神的疲労を考慮してカウンセリングなどを行うのもいいのではないかと感じる。さらなる退学率の低減並びに勉強しやすい環境づくりを目指してほしい。</p> <p>日本学生支援機構の奨学金制度、修学支援制度、学費延納制度や教育ローンの案内などを設け経済的支援体制を構築している。鍼灸学科においては教育訓練給付金の対象のため社会人が就学しやすい制度も整っている。</p> <p>卒業生や在校生が他学科の資格を取得しやすいように授業料減免制度による経済的支援を行っている。前年度に続き今年度も多くの学生がダブルスクールの申請を行ったのは喜ばしい。</p>
<p>教育環境</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>ここ数年は建物の経年劣化に伴う整備を進めており、環境美化を進めている。今年度は壁面の補強工事を行い、校舎の安全性を向上させていることは評価できる。</p> <p>自習室確保や実技室の開放など、学生がより学習しやすい環境づくりを続けてほしい。</p>
<p>学生の 受け入れ募集</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>パンフレット及び募集要項、ホームページ、SNSなどで適正に広報活動を行っている。高校・高等専修学校へのガイダンスにおいて職</p>

	<p>業の魅力を伝えることで、オープンキャンパスへの参加者や多くの入学者の確保に至ったが、スポーツ科学コースにおいては SNS の活用などさらなる周知徹底に努める必要性があると感じる。</p> <p>HP の構成をよりわかりやすく、ターゲットに応じた構成にする必要がある。</p>
財務	<p>自己評価： 適正である</p> <p>学校法人会計基準に則り会計士による資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表などが適正に行われており、財務情報は職業実践専門課程に伴う情報公開を HP 上にて行っている。</p> <p>財務の安定と厳密な監査を期待する。</p>
法令等の遵守	<p>自己評価： 適正である</p> <p>法令・設置基準を遵守し適切に運営されており、学校評価ガイドラインに則り自己評価結果は HP にて公開している。</p> <p>適切に運営されていると思う。今後も情報の公開を進めてほしい。</p>
社会貢献・地域貢献	<p>自己評価： 適正である</p> <p>スポーツ科学コースに設置されているラボ及びジムについては地域貢献を兼ねて一般開放している。</p> <p>今年度も近隣住民参加型の学園祭を開催した。そのような地域との連携を深めていくことは重要であると思う。今後も施術体験などを通じて地域住民に本校の資格についての理解を深めようとしていることは評価できる。</p> <p>今後も地域のイベントに積極的に参加することで、地域住民との連携と交流して学校の発展につなげてもらいたい。</p>

### Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

項目	活用状況
教育理念・目標	<p>HP やパンフレットでの告知はもとより、年度初めのオリエンテーション合宿にて学生への周知徹底を行っている。</p> <p>また保護者に対しても入学式の当日に開催される保護者会への参加を促しており、積極的に伝える機会を持つことで保護者に対しても本校の理念及び目標に対しての正しい認識を持っていただくよう心掛けている。</p> <p>また、医療人として必要な能力を育成し教養を向上させることを目的としており、教育目標の達成に向け教職員が一致団結し取り組んでいる。</p>
学校運営	<p>通常意思決定は管理職が行い、校務の調整は校務運営会議、委員会、評議会、理事会といった意思決定プロセスが制度化されており校務運営システムは確立されている。</p> <p>また学校運営については倫理に即した行動に徹し、コンプライアンスを遵守し、学校としての社会的責任を果たしている。</p> <p>引き続き教育活動についても情報公開を行い、学校運営の客観性・透明性を心がけていきたい。</p>
教育活動	<p>学生が専門的知識や技術を持った上で、医療人として業界や職種や社会のニーズに対応できる人材教育を実践しており、各学科とも修業年限で即戦力のレベルまで達するようにしている。</p> <p>スポーツ科学コースも付属施設における授業は、より実践に近い形式で行われている。</p> <p>授業アンケートで得られた意見を基に、各教員が改善に努めている。専門分野の実務研修や指導力向上の研修に参加しているが、今後インターネットの活用による学習方法やメディア教材の作成活用法に対しても知識・技術の習得が必要となる。</p>
学修成果	<p>今年度も両学科共に高い合格率を出せた。今後は中間層の引き上げのみならず成績下位層の底上げを行うべく学力別での授業を行う。</p> <p>オンデマンド教材の充実など場所を選ばずに学習可能なシステムも検討したい。</p>

	<p>第1学年次から取りこぼしのない授業編成を行うことにより、学業不安による退学者を出さず、入学者全員を卒業させるために担任をはじめ全教職員が学生全員に目を配り、声をかけて退学率の低減を図っていく。</p>
学生支援	<p>スポーツ大会並びに学園祭において、学生主体による学生委員会が運営する試みを行っている。今後、より学生主体の運営がしやすいシステムを構築したい。</p> <p>就職情報は全学年が学生ロビーにて自由に閲覧可能であり、就職相談者には、就職担当と学生課職員が履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。また、企業の人事担当者による学内就職セミナー等を実施している。</p> <p>地方出身者など一人暮らしの学生に対する食事情の対策として、昼食に企業提携によるお弁当販売や出張おにぎりやなどの提供、みそ汁や飲み物の無償提供を実施した。今後もより一層の対応を試みたい。</p>
教育環境	<p>今年度は校舎壁面の補強・環境美化を精力的に行なった。また、学生ロビーに栄養補助食品や軽食を購入できる自動販売機を設置したことで、合間の栄養補給に役立つと感じる。</p> <p>学生数の増加や授業構成の変更に伴い、自習室並びに実技練習ができる教室の確保が課題と感じる。</p>
学生の受け入れ 募集	<p>定員数に達してはならず、今後ますます入学希望者数の充実を図るため教職員全員での活動が必要となる。また、スポーツ科学コースにおいてはさらなる周知徹底に努める必要がある。従来のHP型だけでなく、InstagramやFacebook等のSNSに重点を置いた募集に努めた。また、時期により高校生向けの内容、社会人向けの内容と変化をつけて募集を行った。</p> <p>またスポーツ科学コースを卒業してからのイメージ戦略も大きな課題としてあげられるので、提携企業との連携を深める。</p>
財務	<p>財政基盤の安定化につとめ、事業計画との整合性が十分にとれた中長期計画を策定していきたい。</p>
法令等の遵守	<p>今後もコンプライアンスを守り、適切な情報公開に努めたい。</p>
社会貢献・地域貢献	<p>各種スポーツの救護活動への参加を積極的におこなうことでスポー</p>

	<p>ツへの貢献と奉仕の精神を養う。またスポーツ科学設備の一般開放により、地域への貢献を行うことで地域に密着した学校運営をおこなう。</p>
--	--